



このコーナーは、文書館に保存している古い写真を皆さんに紹介します。



懐かしの1枚

上高瀬駅から東中学校までの道完成 昭和28(1953)年 高瀬町

現在の高瀬町公民館・高瀬町図書館がある場所には、かつて中学校が存在した。昭和27(1952)年に開校した上高瀬村・勝間村・比地二村の三か村組合立東中学校である。昭和30(1955)年3月31日に五か村が合併し高瀬町となると、東中学校は高瀬町立中部中学校となる。東中学校が開校すると、上高瀬駅(現高瀬駅)と東中学校を結ぶ道も造られた。

「思い出の1ページ」

中学校向かいの写真左手に写る建物、当時と変わらぬこの場所で文房具店を営む藤原俊治さん(78)と妻のヒロミさん(75)に当時の話を聞きました。「開校当初は、中学校と私どもの店舗兼住居以外周辺に建物はなく、辺り一面田んぼでしたね。駅前辺りは、店が軒を連ねてにぎやかでした。『松竹座』では芝居を、ギオン通りにあった『ギオン館』という映画館ではチャンバラ映画を見るのが楽しみだったね。見た後は決まって銭湯に。家まで帰る道には明かりもないから恐ろしいくらいでしたよ。後に旧国道まで道が延長され、町役場や学校、金融機関とかができていくと、にぎわいを見せ始めましたね」ヒロミさんは開校した東中学校に通い、3年間を過ごしました。「初めの頃は、運動場の土が周りの田んぼに流れることがありました。先生から土留めに使うための芝や草なんかを集めてこいと言われて、国市池辺りを探しに行ったりしましたよ」俊治さんは50年にわたり地域の防災リーダー、消防団員として活動してきました。

「役場が建ち、消防自動車を購入したんですが、当時車の免許を持つとる人が周辺でほとんどおらず、運転してくれと声を掛けられたのが入団のきっかけだったんですよ。きっかけはどうあれ、育った地元消防団員として関わってこられた事を誇りに思いますね。」

子どもが減り寂しく感じることもあるけれど、元気に通学する子どもたちの姿を見て心が和むのは、今も昔も変わりませんね」



編集 後記

79歳の義母が、先日、免許証を返納しました。何年もバイクに乗っていませんでした。しかし、81歳の義父はそうはいきません。通院や買い物などに車は必要不可欠。まだしっかりしているとはいえ、家族は心配です。これからも安全確認を怠らず、ルールを守って運転してほしいです。